

国宝・大崎八幡宮で学ぶ 仙台・江戸学

SENDAI / EDOGAKU

◆場所：大崎八幡宮 祭儀棟
 ◆時間：13時30分～15時
 ◆受講料：各1,000円
 ◆募集人数：各100名
 ※定員になり次第締め切らせていただきます
 主催
 『国宝大崎八幡宮 仙台・江戸学』実行委員会
 〒980-0871 仙台市青葉区八幡4-6-1大崎八幡宮内
 TEL.022-234-3606 FAX.022-273-1788

講座のお申し込み方法

裏面のお申込み用紙に必要事項をご記入の上お申込みください。尚、毎講座お申込みの方が定員を超え、キャンセル待ちの聴講希望者が発生する関係で、事前に受講料を御入金いただき受付完了とさせていただきます。
 《郵便振替口座》名義/大崎八幡宮 番号/02230-5-4245

◆国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』第三期(平成21年2月～12月)スケジュール◆

開催月日	テーマ/講師	内容
2月13日(金) 13時30分～15時	仙台の出版文化 渡邊洋一 仙台郷土研究会常任理事	藩政時代、三都(京・大坂・江戸)について盛んであった仙台の出版について、書誌学の見地から考察し、現在との違いを解説する。
3月26日(木) 13時30分～15時	仙台藩の不通と忠臣蔵 古川愛哲 文筆家	江戸時代は泰平の世とされるが、その裏で多くの「不通大名」という関係があった。「不通大名」とは、先祖代々大名同士が冷戦状態をつけている関係を指す。仙台藩は芸州藩浅野家と不通の関係だった。この講座では仙台藩の不通の関係を通して「松之廊下事件」から始まる「忠臣蔵」の謎をとき、合わせて元禄時代の仙台藩の江戸での評判について述べてみたい。
4月9日(木) 13時30分～15時	仙台城下の武家屋敷 渡辺浩一 国文学研究資料館准教授	城下町の武士は屋敷交換をしながら結構転居するということと、武家屋敷に住んでいるのは武士だけではなく都市下層民もいるということ、事例に即してお話してみたい。
5月28日(木) 13時30分～15時	政宗を支えた重臣 菅野正道 仙台市史編纂室	伊達政宗を支えた二人の重臣、片倉重綱と伊達成実。この二人が果たした役割、そしてこの二人に勝るとも劣らない重要な地位にあった何人かの家臣たちを取り上げ、仙台藩成立の歴史過程を紹介する。
6月12日(金) 13時30分～15時	150石の領主 —仙台藩士玉虫十蔵の領地支配— J・F・モリス 宮城学院女子大学教授	玉虫十蔵(1744～1802)は、仙台藩の寛政の改革を担った郡奉行として知られるが、彼は150石の所領を持つ給人(きゅうにん)でもあった。十蔵も正月行事の一貫として行っていた「おおばん」をキーワードに、彼が所領の農民とどのような関係を築こうとしていたか、そしてこの関係が壊れていく過程を十蔵の「日記」の記述から再構成する。
7月30日(木) 13時30分～15時	大崎八幡宮の雅楽 芝祐靖 伶楽舎音楽監督	講義に雅楽器の演奏を交え以下の諸点を解説します。①大崎八幡宮「御鎮座四百年奉納雅楽」②雅楽以前の古代音楽③平安中期の楽制改革と雅楽の成立④雅楽継承と江戸期の雅楽⑤明治維新と雅楽の成立⑥大崎八幡宮「芸術文化への貢献」〈演奏/(笙)宮田まゆみ・(箏)八百谷啓人・(龍笛)芝祐靖〉
8月28日(金) 13時30分～15時	“上杉と伊達” —戦国・江戸初期を中心に— 角屋由美子 米沢市上杉博物館主任学芸員	米沢城主伊達輝宗は、友好の証として鷹を贈ることを記した書状を、越後春日山城主上杉謙信に送った。後に謙信の後継者上杉景勝が米沢城主となり、この文書は国宝「上杉家文書」として米沢に伝わった。米沢を領知した2つの大名家の関係を考えてみる。
9月25日(金) 13時30分～15時	仙台城下の商人群像 伊勢民男 仙台郷土研究会	城下町仙台は計画的なまちづくりをもって開府したこともあって、卸売機能の強い商業都市として、中核管理機能を蓄積していった。仙台の近世250年の中で時代、時代を支えた商人(あきんど)たちの形成、あるいはその盛衰を概観し、商人群像の一端を垣間見たい。
10月16日(金) 13時30分～15時	仙台藩の絵師 内山淳一 仙台市博物館学芸室長	仙台における絵画活動は、仙台城や大崎八幡宮、瑞巖寺の障壁画制作など、当初は藩の御用絵師がリードしたが、時代の経過とともに庶民の需要に応えるべく様々な流派の画人が登場してくる。本講座では、御用をつとめた狩野派の画人から仙台四大画家に至るまでの多彩な作品群を紹介する。
11月 未定 13時30分～15時	江戸の話(仮) 竹内誠 東京江戸博物館館長	検討中
12月4日(金) 13時30分～15時	仙台藩の武士と儀礼 中川学 東北大学講師	「徳川の平和」と呼ばれる戦争のない時代に入ると、武士社会は儀礼や格式が重視されるようになったといわれている。仙台藩の武士にとって、儀礼とはどのようなものだったのか。武士の生から死に至るまでの儀礼とその特徴に迫ってみたい。

※講師の方々の所属・肩書きは平成20年11月現在のものです。

ご予約
ください

「仙台・江戸学」講座は講座後、『仙台・江戸学』叢書として順次刊行されます。

国宝大崎八幡宮
仙台・江戸学叢書
定価 各巻600円(A5判 約76頁)

叢書のお申込み方法

裏面のお申込用紙に注文数をご記入の上お申込みください。叢書発送時に郵便振替用紙を同封いたしますので、その都度、ご精算ください。

氏名	フリガナ	申込日	平成	年	月	日
	(〒 -)		年	月	日	
住所	電話番号		FAX番号			
	()		()			

国宝・大崎八幡宮
『仙台・江戸学』第三期 (平成21年2月~12月) **お申し込みの講座に○印を、叢書に冊数をお書きください。**

講師/テーマ			受講申込	叢書申込
2月の講座	渡邊洋一	仙台の出版文化		
3月の講座	古川愛哲	仙台藩の不通と忠臣蔵		
4月の講座	渡辺浩一	仙台城下の武家屋敷		
5月の講座	菅野正道	政宗を支えた重臣		
6月の講座	J・F・モリス	150石の領主—仙台藩土玉虫十蔵の領地支配—		
7月の講座	芝祐靖	大崎八幡宮の雅楽 演奏/(笙)宮田まゆみ・(箏)八百谷啓人・(龍笛)芝祐靖		
8月の講座	角屋由美子	“上杉と伊達”—戦国・江戸初期を中心に—		
9月の講座	伊勢民男	仙台城下の商人群像		
10月の講座	内山淳一	仙台藩の絵師		
11月の講座	竹内誠	江戸の話 <small>(仮)</small>		
12月の講座	中川学	仙台藩の武士と儀礼		

国宝・大崎八幡宮
第一・二期講座 (平成19年5月~20年12月) **『仙台・江戸学叢書』のお申し込み** **お申し込みの叢書覧に冊数をお書きください。**

著者/テーマ			叢書申込
1	濱田直嗣 文化史家・前仙台市博物館館長	城下町の268年	
2	佐藤昭典 仙台・水の文化史研究会会長	利水・水運の都 仙台	
3	近江恵美子 東北生活文化大学教授	仙台七夕 伝統と未来	
4	政岡伸洋 東北学院大学准教授	仙台の祭りを考えるための視点と方法~民俗学の立場から~	
5	吉岡一男 仙台郷土研究会副会長	仙台城下の庶民信仰	
6	菊池慶子 聖和学園短大教授	「杜の都・仙台」の原風景—樹木を育てた城下町—	
7	竹内英典 東北福祉大学講師	松窓乙二門の女流俳人	
8	千葉正樹 尚綱学院大学准教授	聖なる水の空間—大崎八幡宮選地試論—	
9	小井川百合子 仙台市博物館学芸室長	仙台藩と茶道	
10	堀野宗俊 瑞巖寺宝物館宝物課長	大崎八幡宮と瑞巖寺	
11	綿抜豊昭 筑波大学教授	政宗の文芸	
12	佐藤憲一 仙台市博物館長	伊達政宗と手紙	
13	大藤修 東北大学大学院教授	仙台藩の学問と教育—江戸時代における仙台の学都化—	
14	太宰幸子 宮城県地名研究会会長	仙台城下の地名	
15	岩本由輝 東北学院大学経済学部教授	本石米と仙台藩の経済	
16	菊池勇夫 宮城学院女子大学教授	仙台藩と飢饉	
17	鵜飼幸子 仙台市博物館市史編纂室長	仙台藩の学者たち	
18	水野沙織 仙台市市史編纂室	仙台城下の芸能事情	
19	平川新 東北大学東北アジア研究センター教授	仙台藩のお家騒動	

※第一・二期の講師の肩書は講座開講時のものです。叢書は随時刊行の予定です。 ■は既刊 ■は未刊 定価 各巻600円(A5判約76頁)